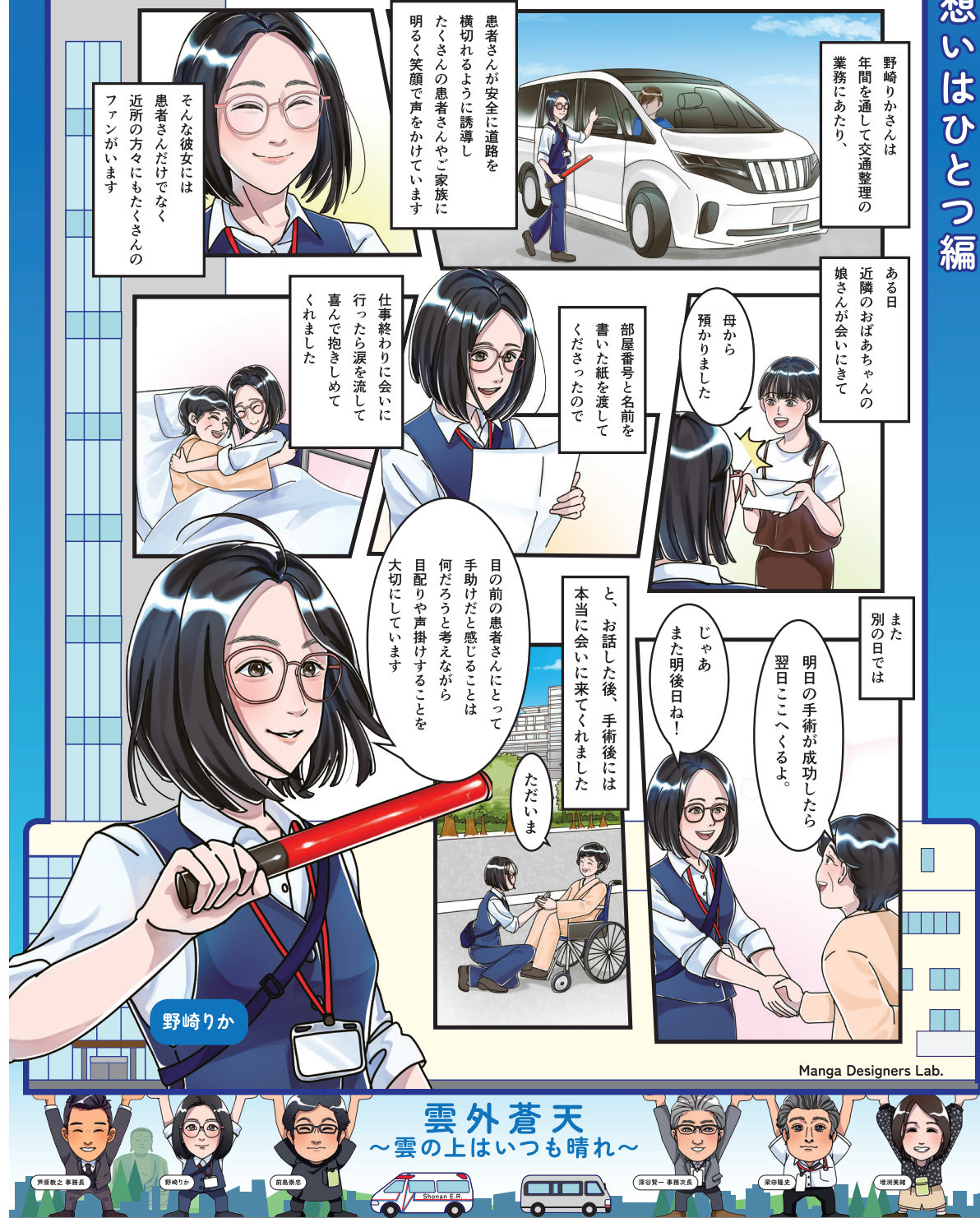


湘南鎌倉メディカルスタイル

#6

想いはひとつ編



※当院の医療現場や職員の日常を描いたマンガを連載します。当院の活動をお伝えするとともに、医療・健康に関する情報も提供していければと考えています。https://skgh.xsrv.jp/manga/ からもお読みいただけますので非诚勿扰です。



SHONAN
湘南鎌倉総合病院広報誌

しょうなんめーる
Mail

Number 195
2023 November

SHONAN Mail Vol.195
2023 November

特集: DX 特集～病院の未来に向けた第一歩～
編集・発行 湘南鎌倉総合病院 年報広報誌委員会

▶ 特集 ◀ DX 特集 ～病院の未来に向けた第一歩～

国際心臓血管セミナー in 葉山 報告
オンコロジーセンタークリスマス会案内

当院職員を主人公としたマンガ「湘南鎌倉メディカルスタイル」
#6 想いはひとつ編

撮影者: 患者支援室 大久保 由美 看護副主任
撮影地: 鎌倉市 明月院 (梧りの窓)

DX特集

～病院の未来に向けた第一歩～



昨今、さまざまな場所で話題になる **DX (デジタルトランスフォーメーション)** デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革することを指しますが、はたして病院では一体どのようなことが起こっているの？と疑問を持たれる方もいらっしゃると思います。
今回、そんな病院の DX を担っている2つの部署から展望を伺いました。

病院が取り組んでいる DX について訊ねてみました!

Q1 病院における DX とは、どのようなことがあるのでしょうか?

A1 病院におけるデジタル化は大きな進化を遂げ、便利で安心なシステムを構築しています。電子カルテに始まり、デジタル問診、各種ロボットの導入など、病院内のさまざまな部分で日々変化しています。近いところでは「デジタル診察券」といったサービスが普及して、みなさんのスマートフォンで予約から診察結果などまで1つにまとめて管理できるような世界もそう遠い話ではないかもしれません。

将来的には、チャットボットで紹介状や入退院のサマリを自動で書いてしまえるようになるかもしれません。そうすれば、ドクターやスタッフは一層診療や看護に集中できるようになりそうです。

紙カルテから
電子カルテへ



▶ 電子カルテの「いいところ」

- ☐ 端末さえあれば、どこでも見れる!
- ☐ 手書き文字と違い、だれもが読みやすくなりました!
- ☐ 紙のカルテは紛失など、探すのに一苦労あったことも!?
- ☐ 場所取らずで、スペースの有効活用ができます。
- ☐ データベースとして、検索性 UP。
- ☐ お会計などもスムーズに!

◀ 院内どこでも閲覧可能な電子カルテ



Q2

湘南鎌倉総合病院ではロボット導入もニュースになっていましたが、現在の病院での活躍など状況は?

A2

ロボット手術にとどまらず、お掃除ロボットや運搬ロボット、受診案内ロボット、さらに薬を作るロボットなども導入や実験がなされています。人の手では大変苦勞する抗がん剤の作成もロボットが対応し、おおきな効果を発揮しています。

人が動くよりもロボットに任せたいほうが良い部分はロボットに、人でなければならない部分は人に集中してもらえるようになればと考えています。

SUPPORT ROBOT 01

▶ ストレッチャー・アシスト・ロボット

力自慢なアシストロボットが看護師・看護助手を手助けします。患者さんに乗せてのストレッチャー移動の負担が大きいので、移動時の負担をロボットが軽減し、看護師・看護助手の腰への負担を軽減させました。



SUPPORT ROBOT 02

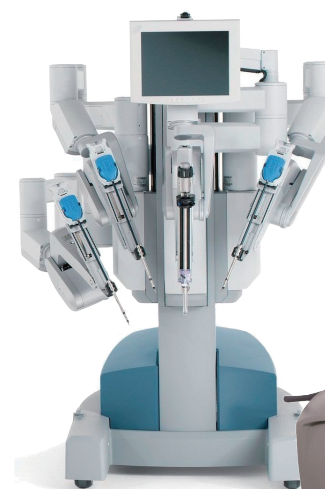
▶ 検体・運搬業支援ロボット HOSPI (ホスピー)

基本運用は夜間定期での薬剤搬送と検体回収を行う目的で導入されました。昼間は、先端医療センターへの薬剤等の搬送及び各端末からの要求による緊急搬送を行います。



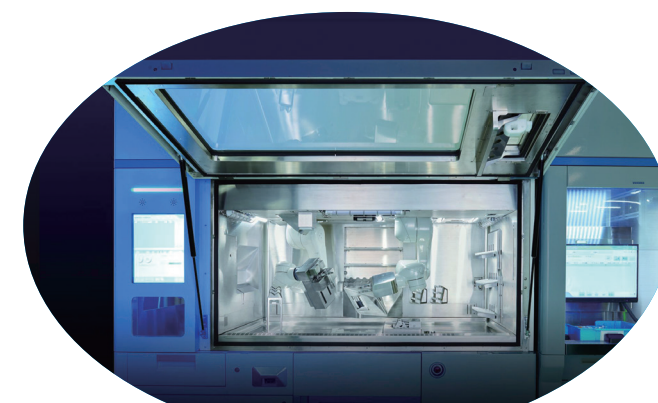
SUPPORT ROBOT 03

▶ ロボット支援手術装置 da Vinci (ダヴィンチ)



当院では2012年に導入され、ロボット手術・臓器移植センターを開設し臓器移植を開始、約170例の移植を実施しています。

今後の多臓器移植も視野に入れてセンター化を計画中。



SUPPORT ROBOT 04

▶ 抗がん薬混合調製ロボット ChemoRo (ケモロ)

まるで薬剤師が調製しているかのように、ChemoRo (ケモロ) は安心・安全に薬の調製作業を行います。

これまで人の手を介して調製していたものをロボットが代わりに行うことで飛躍的に安全かつ安定して作ることができるようになりました。

Q3 コロナ渦では院内・院外の対応においても劇的な変化があったようですが、どのようなことがあったのでしょうか？

A3 大きな点では、非接触での面会システムの導入がありました。きっかけは重篤な患者さんと、そのご家族をオンライン通信でつなぐことができたことです。ルールもない中ではありましたが、スタッフみなさんの尽力によって成し遂げることができました。

通信部分での対応という点では、公開医学講座のオンライン対応があげられます。以前は会場でのリアルな開催でしたが、「今の医療情報を適切なタイミングで常にお届けしたい」という思いから、当時のコロナ情勢に対応すべくオンラインでの開催を始めました。

このようにコロナ情勢がIT化、通信技術を使つてのサービス強化を加速させたことは間違いありません。

▶ たいへん喜んでいただけた非接触での面会



▲病院のあらゆるスタッフが集まり、患者様の受け入れ体制から入念に準備を進めました。(写真は当時の模擬訓練の様子)

▶ 公開医学講座のオンライン対応



▲インターネットを使用したご自宅等で視聴できる無料の医療講座です



公開医学講座の詳しい内容はこちらから！

Q4 患者さんへの新しいサービスは何かございますか？

A4 病院のことをより身近に感じていただけるように、手軽さ・便利さの追求はもちろん、充実したコミュニケーションを目指しています。湘南鎌倉総合病院では患者さん目線に立ったLINEの活用を開始。“身近なしょうかま”を感じていただけるように、と動き始めています。



しょうかま DX を強力に推し進める2つの部門を一挙ご紹介！

▶ 情報システム室

Q1 業務で得た感動や喜びは？

A1 システム導入や対応によって業務の効率化や患者安全に貢献できたとき、スタッフに喜んでもらった時は大きな喜びを感じます。

また、現場スタッフや部署内スタッフと協力し助け合い苦勞しながらプロジェクトが無事に遂行できた時は、達成感で感動する時です。

Q2 今後やってみたいこと

A2 今後は患者さん向けのシステムも導入し、患者満足度の向上や患者エンゲージメントに貢献したいと思っています。スマートフォンでの診療待ち番号表示、診療予約の取得や確認もさることながら、自分の採血検査結果や処方記録の確認など、患者さんが自分のカルテ（医療記録）を自分で持ち歩くようなことができれば、健康管理に積極的に参加頂く動機づけとなり、健康情報の透明性と患者中心の医療の促進にも寄与し、医療の質向上にも繋がると考えています。



(前列左から) 濱中 亮主任、和田 悠久課長、相田 智史事務員、
(後列左から) 都 龍馬事務員、松本 京吾事務員、佐藤 与美事務員、
(右左上から) 高橋 健也副主任、増淵 一希主任

▶ デジタルコミュニケーション室

Q1 業務で得た感動や喜びは？

A1 直接患者様に接することが少ない部署なのですが、病院で働く職員や病院へいらっしゃる患者さんの負担を減らし 効率的な情報共有や、質の向上を実現できたと思えた時に喜びを感じます。新しい技術を現場に最適に落とし込むことが、私たちの仕事の魅力です。

Q2 今後やってみたいこと

A2 人手不足を補うために、病院においてもますます自動化が進むと思います。その中でサービス利用者が、分かりやすく、使いやすい、そして便利に使える技術を提供していきたいと考えています。今後の展望としては、患者さんがご自身で管理している医療情報と病院のデータ連携や、AI を活用した業務効率化なども視野に入れています。



▲左から 具伊和之課長・天川麻美子事務員



事務長 芦原 教之

湘南鎌倉総合病院が目指す“病院 DX”と“未来の病院像”

医療提供環境における直接的医療に関する技術・商品は日進月歩で発展しています。一方、間接的医療の環境におけるDX化は大きく遅れを取っている状況です。

わたしたち湘南鎌倉総合病院においても、2040年に向かえる生産労働人口と高齢者数が同一となる時代までに、医療提供における業務を合理化・効率化するための技術導入・DX化を一歩でも進めておく必要があります。

当院からの発表 **多数**

～湘南鎌倉総合病院の心臓血管領域での信頼と存在感を示す～

2023.9.16-17

湘南国際村センター
国際会議場



Tokushukai International Cardiovascular Seminar in HAYAMA
徳洲会 国際心臓血管セミナー in 葉山

about

湘南鎌倉総合病院は、歴史的に心臓血管領域を得意としてきた医療グループ徳洲会にある75病院の一つです。この、当院の母体である徳洲会が、このほど同グループ創設50周年を記念して「徳洲会国際心臓血管セミナーin葉山」を主催しました。9月16・17日の2日間、湘南国際村センター（葉山町）で開催されたセミナーには、国内はもとより米国、タイ、中国など海外10カ国から約700人（うち現地163人）の専門家が参加しました。

our presenters



齋藤 滋
心臓センター長



松本 崇
循環器科部長



浅井 徹
院長補佐・
心臓血管外科 統括部長



野口権一郎
心臓血管外科部長



小林修三
院長

program

セミナーでは全26演題（うち徳洲会グループ9演題）のプレゼンテーションがあり、そのうち4演題は当院から発表されたものでした。小林修三 院長は「血液透析患者の心血管イベント：血管石灰化への試み」をテーマに発表。腎障害のある患者さんは心血管障害が多いことなど、腎臓病と心疾患の関係を解説しました。

続いて登壇した齋藤 滋 心臓センター長は「冠動脈疾患に対するステント治療の進歩」と題し、当院の心臓センター立ち上げの経緯や、医学研究・論文発表により知見を蓄え医学会に還元してきたことを説明。「これからも世界一の病院を目指します」と述べました。野口権一郎 心臓血管外科部長が「遠位弓部大動脈瘤に対する手術戦略」、松本 崇 循環器科部長が「カテーテル専門医による僧帽弁治療」と、それぞれ最新の治療について発表しました。



▲参加者の熱気に満ちた会場

セミナー会長を務めたのは、当院の浅井 徹 院長補佐・心臓血管外科 統括部長です。浅井統括部長は、「現在のベストの治療が普遍的なベストではあり得ません。このセミナーが、国や学会などの枠組みを越え、心臓血管治療において我々が今どこにいるかを議論し、今後のビジョンを考えるきっかけになればと思います」と、趣旨を説明しました。

浅井統括部長はセミナーの最後に締めくくりとして、「より良い治療で一人でも多くの患者さんを救いたいという本質的な思いを共有でき嬉しく思います」と述べました。セミナーは盛況のうちに2日間のプログラムを終えました。今後の徳洲会、および湘南鎌倉総合病院の心臓血管領域の展開にご期待ください。



湘南鎌倉総合病院 オンコロジーセンター クリスマス会 12月23日(土) 14時～15時30分

場所：湘南鎌倉総合病院
D棟1階ロビー

※予約不要・直接会場へお越しください

1



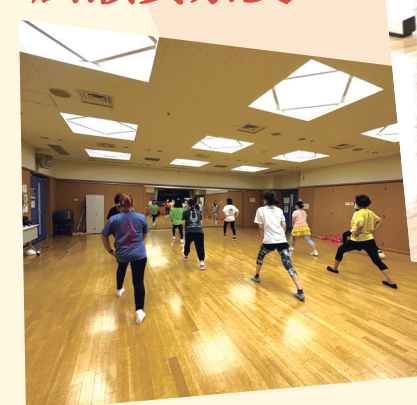
管理栄養士による講演

「食欲がないときのクリスマスメニュー
&お正月メニュー」

滝島抄恵（管理栄養士）

2

一般社団法人がんサーフィットネス
広瀬真奈美さん



（軽い体操程度です）

がんサーフィットネス



3

バイオリン
下山ライ医師

&ピアノ
三浦 由起子 言語聴覚士
クリスマスソングの演奏



スタッフによるクリスマスコンサート